

王浩勤 Wang Fa-ching 五十二 直隸省天陽縣人(現在北京) 十六年未了之老妻事件アリト云ク 直隸省人(現在北京)	陳友仁 Engene Chen 五十 英國籍 現在(天津) 外務官 天津人(現在北京) 天津人(現在北京)	陳樹人 Chen Shu-jen 五十 直隸省晉陽縣人(現在南京) 十六年未了之老妻事件アリト云ク 南京人(現在南京)
---	---	--

直隸省人(現在北京)

外務省

何香凝 Ho Hsiang-ning 廿八 四十才前 直隸省南海縣人(現在南京) 直隸省女子美術學校出身 南京系	甘正光 Kan Lai-Kuang 四十三才 直隸省楊州縣人(現在漢口) 南京大學中途退學 未回國出身
--	--

外務省



天津諸員ノ郵辭

白崇禧	一月二十日 蔣介石本宗位に對し辭意を通ス
白	一月二十日 蔣介石本宗位に對し辭意を通ス
張	一月二十日 比甲西の命令首席ヲ辭去
田錫山	一月二十日 意方ニ辭意ヲ通シ全日有難政令分令ニ出席ス 又二十日西の命令に對し辭意ヲ通シ全日有難政令分令ニ出席ス 一月二十日 塘沽着 ↓直轄大層ニ移 ↓一月末末平ノ旨

外務省

張	一月二十日 浙江省蕭山人 蔣介石ノ對し辭意を通ス
梁	一月二十日 龍馬 蔣介石ノ對し辭意を通ス
李	一月二十日 蔣介石ノ對し辭意を通ス
新	一月二十日 蔣介石ノ對し辭意を通ス

外務省

No. 0.0. P-2 )

巴 達 維 亞	茅 祖 權	( Mao Zu-Quan )	年 四 十 八	江 蘇 省 出 身	日 本 法 政 大 學 卒 業	民 國 十 六 年 口 民 黨 中 央 特 別 策 畫 員 候 補 策 畫 員	兼 中 央 黨 部 組 織 部 策 畫 員	同 年 十 月 江 蘇 省 政 府 民 政 部 長	國 民 黨 西 山 派 二 層 策 畫 員
------------------	-------------	-----------------	------------------	-----------------------	--------------------------------------	--	---	---	---

記録件名  
茅祖權  
江蘇省出身  
日本法政大学卒業  
民國十六年口民党中央特別策畫員候補策畫員

人名

外務省

不詳記





時局關係諸軍閥

馮蔣關係惡化ニ際シ目下兩派共ニ閻錫山、張學良、唐生智其ノ他大  
小軍閥將領ノ實收乃至連絡ニ腐心シツツアリ是等大小軍閥ノ向背如  
何ハ馮蔣關係今後ノ發展ヲ左右シ從テ兩派監督ヲ決定スルノ重大原  
因トナルモノト豫想セラルルヲ以テ次ニ時局觀測上何等參考迄前記  
軍閥將領ノ舉傳ヲ抄録スルコトトセリ  
但閻錫山、張學良ノ巨頭ハ之ヲ除外シ(一)唐生智、陳調元、方振武、  
傅源泉、朱培德等蔣介石ノ傍系ニシテ其態度明瞭ヲ缺クモノノ他(二)  
山西派ニ屬スル商震、傅作義(三)奉天派ノ干學忠、湯玉麟(四)蔣直系ノ  
何成濬、黃耀祖(五)左派ノ陳延炯等現時局ニ大小ノ役割ヲ演スルモノ  
ト認ラレル人物ヲ列舉シタリ

外務省

(赤 粹 紙) 4

「態度不明ナル軍閥」

「唐生智」

四十才湖南省東安縣人

湖南陸軍小學堂、湖北陸軍中學堂ヲ修メ夏ニ保定軍官學校ヲ卒業  
シ湖南ノ楊恒惕ノ部將トナリシカ民國十五年革命軍ニ投シ陳銘福  
劉左龍等ト共ニ武漢ヲ攻略シテ武漢政府ヲ樹立シ第四集團軍總司  
令トシテ第一方面軍總指揮ヲ兼メ第八(李品仙)第三十五(何健)  
第三十六(劉興)其他直屬軍約八万ヲ領シ武漢政府ノ軍權ヲ掌握  
シタルカ十六年十月末南京軍(李宗仁、白崇禧等廣西派)ノ爲ニ  
討伐セラレ十一月下野シ日本ニ亡命スルノ巴ムナキニ立至レリ。  
其後密カニ上海ニ歸リ復活ノ機會ヲ窺ヒ居リシカ本年三月漢寧關

外務省

43

(赤 棒 紙) イ

係悪化スルヤ蔣介石系何成滯ハ白崇禧軍ノ大部分カ唐生智ノ舊部  
 下タル關係ニ着目シ唐ノ出慮ヲ促シ白軍買収ノ後唐生智ヲコレカ  
 總指揮第五路總指揮ニ推舉セリ。而シテ唐生智ノ兵力ハ第五十一  
 師(李品仙)第五十二師(劉興)第五十四師(魏益三)及劉春榮  
 ノ約六万ナリ  
 然ルニ唐ハ武漢ニ於ケル廣西派没落後湖南歸還ヲ欲シタルニ蔣介  
 石ハ之ヲ肯セス一方京津地方ニ在リテハ山西派ノ爲ニ毛嫌ヒサレ  
 永夕同方面ニ駐リ難クシカモ他ニ適當ナル地盤ヲ見出シ得サル情  
 ミアリ之加唐ハ奮クヨリ左派ニ關係深キヲ以テ最近蔣蔣關係切迫  
 ト共ニ成ハ唐カ馮ト連絡シ反蔣聯盟ヲ結成スルニ至ルヘント推測  
 スル尙モアリ蔣介石ハ右唐ノ態度ニ多大ノ疑ヲ懸ケ唐ノ軍ヲ急遽  
 ツアリ。

外 務 省

4.3

(赤 棒 紙) イ

山東方面(濟寧、兗州)ニ移動ヲ命スル一方唐ヲ軍事參議院長ニ  
 任命シテ蔣一統ノ後從策ヲ請シタルカ唐ノ態度ハ極分明ヲ缺キ今  
 後ノ向背如何ハ時局ニ重大ナル影響ヲ與フルモノト料想セラレツ  
 ツアリ。

外 務 省

4.3

「方振武」

曾テ張宗昌部下ナリシカ民國十五年一月道口鎮ニ於テ獨立ヲ宣シ  
第五國民軍ト改稱ス

其後河南第二國民軍ト共同動作ヲトリ國民軍東路總指揮鹿鍾麟ノ  
下ニ第二軍長トナリ十七年四月ノ北伐ノ際ニハ第一集團軍第四軍  
團總指揮トナリ北上シ其儘京津地方（通州、密雲）ニ駐屯シタル  
カ本年四月山東接收問題ニ關聯シテ蔣介石ヨリ德州方面移駐ヲ命  
セラレ津浦線北段警備司令ニ就任シ其後何成濬ノ肝煎ニヨリ山東  
引繼ノ任ニ當ル様内定セル處中央ノ何應欽ハ孫良誠泰安引揚後安  
徽省ノ陳調元軍ヲシテ山東ヲ接收セシメ方振武ハ安徽ニ移駐セシ  
ムルコトニ決定シタルヲ以テ方振武ハ内心甚々不平ナル模様アリ

(赤 抄 紙) イ

外 務 省

(因ニ方ハ客年五月濟南事件ノ責任者也)

右述ノ如ク方振武ハ中央ノ決定ニ對シテ不滿アル一方馮玉祥トハ  
舊クヨリ關係薄カラサルモノアルヲ以テ馮蔣抗爭ニ際シテハ其向  
背最モ要問題セラシ居レリ。

方振武ノ兵力ハ約三万ニシテ第四十四師（改玄武）第四十五師方  
振武）ヨリナル。

(赤 抄 紙) イ

外 務 省

「陳調元」

直隸省安新縣人、北洋武備學堂出身ニシテ江蘇省土着軍ヲ率ヒ嘗テ楊宇霆部下タリシコトアリシカ民國十三年孫傳芳ニ叛返リ奉天軍討伐ニ加擔シ十六年三月ニハ更ニ國民軍ニ投シ北伐ニ從事セリ十七年四月ノ北伐ニハ第一集團軍第二軍團總指揮トナリ北上シ其儘宣化（京津地方）ニ駐屯セルカ漢寧交戦ニ際シ蔣介石ヨリ徐州ニ移駐ヲ命セラレ討逆軍總豫備司令ニ任セラレ更ニ孫良誠ノ泰安引揚々後山東省政府首席トナリ山東引繼ニ當ルコトトナレリ。其間ハ其向背常ニ計ラレヌ今次馮蔣關係緊張スルニ至ルヤ或ハ孫傳芳ノ關内進出（蔣介石ハ張學良ニ對シ馮ノ背後ヲ衝クタメニ孫傳芳起用ヲ進言セリトノ噂アリ）ト共ニ山東ニ於テ孫傳芳再起ノ

(赤 粹 紙) イ

外 務 省

計畫ヲナシツツアルヤニ傳アルモノアリ其ノ態度ハ相當中央ノ神系ヲ刺戟シツツアル模様ナリ兵力ハ第四十六師（范鳳岐）及第四十七師（陳調元）ノ三万ヨリナル。

(赤 粹 紙) イ

外 務 省





「徐源泉」

三十六才湖北省黃岡縣人

舊奉天軍將玉璞（張宗昌系）ノ部下トシテ直魯軍ノ精銳ヲ率ヒタルカ民國十七年六月滄州ニ於テ馮玉祥系林正則ト計リ張宗昌、褚玉璞ト絶縁シ國民軍ニ變返リ第二集團軍第十一軍長ニ任用セラレタリ・シカルクニ徐ハ元來馮軍ト相容レス一方山西軍トノ對立上永ク京津地方ニ駐マルヲ得スシテ已ムナク蔣介石ニ款ヲ通シ本年三月頃ヨリ安徽省蚌埠ニ移駐セリ。

兵力ハ當初約五万ノ精銳ヲ擁シタルカ南下ノ途次部下孫殿英ハ二万ノ兵ヲ率ヒ同軍ト分リシテ蘇東方面ニ赴キタルヲ以テ現在ハ約三万内外トナレリ。

(赤 梓 紙) イ

外 務 省

（尙孫殿英ハ一時張宗昌ニ味方シタルモ最近國民軍ニ改編セラレ任應岐ト共ニ蔣ノ傍系ニスレリ）

(赤 梓 紙) イ

外 務 省

「朱培德」

四十九才雲南省人雲南講武學堂及日本陸軍士官學校卒業  
廣東ニ生レ業ヲ終ルヤ初メ雲南軍ノ營團長ニ歷任シ又永年廣西ニ  
アリテ陳炯明ト協力シ廣東軍ト連戦シタルモ後廣東ニ入り李烈鈞  
ノ下ニ走リ李ト殊ニ關係深ク之ニ從ヒ三度北伐ニ從事セリ  
民國十六年二月武漢政府ヨリ江西省政府主席ニ任セラレタルモ其  
後唐生智一派ト南京政府トノ軋轢ニハ南京派ニ味方シ江西省政府  
主席ノ地位ヲ保持シ十七年ノ北伐ニハ第一集團軍前敵總指揮トシ  
テ北上シタルカ元來蔣介石トハ關係薄ク殊ニ近來蔣介石ハ江西省  
ヲ自己ノ勢力下ニ置カムトシ朱ノ地位ヲ脅カスニ至レルヲ以テ朱  
ハコレヲ快シトセサル模様アリ從テ漢寧抗爭ニ際シテハ其向背ヲ

(赤 粹 紙) イ

外 務 省

要ハレタルモ猶ホ表面蔣介石トノ連絡ヲ絶タヌ討逆軍第一路總指  
揮ニ任命セラレタリ。

但今後廣西派カ復活スルニ至ラハ之ニ關聯シテ朱ノ態度必スシモ  
蔣介石支持ニ止終スルモノト豫算スルヲ得ス。

(赤 粹 紙) イ

外 務 省

山西派

「商賈」

直隸省保定出身 四十三才

保定陸軍速成學堂、北京陸軍大學卒業及日本士官學校卒業

元來陸建章ノ幕僚ナリシカ民國十六年閻錫山カ國民革命軍北路總

司令トナルヤ始メテ閻ノ下ニ北路第一軍長ニ就任シ十七年ノ北伐

ニハ第三集團軍第一軍長トシテ北支ニ駐防シ奉天軍京津撤退後北

京ニ入り河北省政府主席トナリ而シテ京津地方ニ駐屯スル山西軍

(約八万)ノ總指揮タリ商ハ馮玉祥トハ舊クヨリ淺カラサル關係

アリ閻錫山ニ對シテハ全ク傳承ニ屬スルヲ以テ最近ノ馮蔣對立ニ

際シテハ閻ノ蔣提携ニ贊成セズ寧ロ馮ト連絡ヲ主唱シテ模倣ナ

(赤 梓 紙) 4

外 務 省

フダヤ  
傳作義

閻錫山直系ニシテ現在天津警備司令トシテ共力一万五千(第四十

三師)ヲ有ス

乍然傳ハ既ニ百万ノ富ヲ作り昔日ノ戰塵ヲ失ヒテ以テ今後國

カ如何ナル態度ニ出スルニヤヨ其命ヲ奉シテ積極的ニ閻ヲ支援ス

ルコトナカルヘシト言フモノアリ(張孤ノ談)

(赤 梓 紙) 4

外 務 省

43

42

奉天派  
子學忠

元吳佩孚ノ部下ニシテ後奉天軍ニ投シ奉天軍第三、第四方面軍々  
長トナリ客年六月奉天軍ノ北平進退却ト共ニ山海關ニ引揚ケ其處  
陸軍總司令トシテ滿東五縣ヲ地盤トシタルカ南北合一後自然右關  
第滿東五縣ノ讓渡問題發生シタルニ于學忠ハ元奉天派トノ關係  
薄ク若シ右五縣ヲ南方ニ讓渡スルトキハ其地盤ヲ失フ懼レアリ爲  
ニ強強ニ讓渡ニ反對シ居リタルカ最近馮蔣關係學忠ニ伴ヒ山西軍  
ニヨリ京津地方ノ警備手薄トナレルヲ補充スル名目ノ下ニ奉天軍  
ノ先鋒トシテ再ヒ河北省ニ進出スルコトトナリタル由傳ヘラル

「湯玉麟」

外務省

(赤 押 紙) イ

五十八歳 熱河朝陽縣人

所屬森林出身ニシテ張作霖ノ股肱ノ一タリ。一時張作霖ニ背キ張  
勳ノ復辟運動ニ参加シテ失敗シタルカ再ヒ張幕下ニ歸參シ其後武  
勳ヲ重メテ民國十五年以來熱河都統トナレリ  
元來湯ハ楊宇霆一派ニ屬シタ本年一月楊當處刑後張學良トノ關係  
兎角良好ナラヌ從テ今後時局ノ動搖ニ際シテハ其態度ニ付キ相當  
注意ヲ拂フ必要アリ

(赤 押 紙) イ

外務省

蔣介石直系  
カセイシミン  
何成濬

四十七歳 湖北省人 日本陸軍士官學校第五期歩兵科卒業民國革命當初ヨリ黃興ノ維新ニ在リテ奔走シ十七年北伐ニハ國民革命軍總司令部總參謀トナリ奉天軍撤退後東三省軍略軍總司令ニ任セラレ更ニ南北統一後東三省ノ政治監視ノ目的ヲ以テ奉天ニ派遣セラレタルカ漢寧紛争ノ際蔣介石ノ内命ヲ受ケテ北平ニ歸リ京津地方ニアル白樂勝ノ部下ヲ買収シ唐生智ヲ起用シテ第五路討逆軍ノ總指揮ニ奉ケ自ラハ魏益三及陸春榮ノ兩師ヲ以テ第五軍ヲ編成シ其ノ軍長トナリ唐ノ總指揮ニ屬シタリ。一方何ハ北平ニ國民政府辦事處ヲ設ケ其主席者トナリ北支及山東方面ノ第一集團所屬部隊ヲ

(赤 梓 紙) イ

外 務 省

操縱シテリシカ最近中央ヨリ湖北省政府主席ニ任セラレタリ。何成濬ハ國歴才幹共ニ現中央政府内部屈指ニ屬シ蔣介石ノ信任ヲ負ヒ且下北支ニ於ケル馮玉祥聯盟結成ノ爲全力ヲ盡シテ奔走シテリ。

賀耀組

四十一歳 湖南省寧鄉縣人

日本陸軍士官學校第十一期騎重兵科卒業民國十四年湖南第一師長ニ任セラレ十五年限滿後共ニ唐生智軍ヲ討テタリ十七年四月北伐ノ際第一集團軍第三從隊總指揮トナリ山東ニ出動シタルカ濟南事件ノ實ヲ負ヒテ免職セラレ後南京ニ在リテ蔣ノ股肱トシテ活動シ今被湖南省政府委員トナリ尙今蔣介石ノ討馮軍第一方面軍ノ

外 務 省

總指揮トナル由傳ヘラル

(赤 牌 紙) イ

外 務 省

4.3

左派軍閥

張 發 奎

三十三才廣東省始興縣人武昌陸軍軍官學校卒業 右卒業後陳銘樞  
ト共ニ李濟深ノ麾下ニ入り蔣介石ノ北伐軍ヲ起スヤコレニ從ヒ軍  
功アリ十六年武漢政府ヨリ第四集團軍第二方面軍總指揮ニ任セラ  
レ武漢軍ノ重鎮タリシカ十六年末廣東ニ入り軍權ヲ握リタルモ十  
二月李濟深ノ爲ニ共產黨ト結托シ廣東ヲ擾亂セリトノ名目ノ下ニ  
官職ヲ被奪セラレ失脚シタリ。張ハ元來國民黨ノ廣東派(左派)  
ニ屬シタルヲ以テ蔣ト左派トノ結托脫ニ伴ヒ張モ亦反蔣運動ニ參  
與スルヤニ傳アルモノアリ一方蔣介石ハ張深第三路前敵總指揮ニ  
任命シタルヤノ情報モアリ。第一集團軍第四師總指揮ト共ニ其向

(赤 牌 紙) イ

外 務 省

4.3

秋

實ニ多少ノ誤アリ

(赤  
梓  
紙)  
イ

外  
務  
省

4.3

(甲) 第一集團軍

第一師 劉峙 (蔣介石系主力)

三十八才 江西省 吉安縣出身

保定軍官學校第二期步兵科卒業

何應欽(參謀總長)ノ直系ニシテ夙クヨリ國民革命軍ニ入り果

次戰功ヲ擧ケ武名馳々タリ

其半アル第一師ハ蔣介石軍ノ中堅ヲナス

第二師 顧祝同 (蔣介石直系)

三十六才 江西省 遂水縣出身

保定陸軍軍官學校第六期卒業生

饒大鈞、劉峙等ト同盟ニシテ何應欽ノ舊部下即チ蔣介石直系ト

(赤  
梓  
紙)  
イ

外  
務  
省

4.3

目セラル

第三師 毛炳文 (蒋介石直系)

湖南省出身、第四十軍(黃耀祖)ノ副軍長タリシカ民國十七年五月濟南事件後黃耀祖ノ後任トシ代理軍長トナリ同年八月末第一集團軍ノ第二期整理改編ニ第八師副師長ニ任命セラレ本年一月第三師長錢大鈞カ上海阿片問題ノ責ヲ負ヒ罷免セララルマ其後任トナリ第三師長ニ昇進ス

第四師 繆培南 (張發奎系統)

廣東省人 元黃琪翔ノ部下ニシテ廣東派ニ屬シ民國十六年十二月ノ廣東共產黨事件ニテ失脚シタルカ十七年一月蒋介石復活後之ニ隨從シテ北伐軍ニ參加シ其後山東萊州ニ駐屯セシカ廣東常

(赤 粹 紙) イ

外 務 省

4.3

駐ヲ欲シ漢寧交戦ニハ江西方面ニ移動セリ

其軍ハ張發奎ノ舊部下多ク殊ニ軍長朱暉日ハ張ノ命ヲ奉シテ海峽ニ敷テ通シ居ル由傳ヘラル(五月十九日張孤談)

第五師 羅式輝 (蒋介石系)

三十七才 江西省安義縣人

江西陸軍小學堂ヨリ進シテ保定陸軍軍官學校ヲ經テ日本陸軍大學ヲ卒業ス元來李烈鈞ノ部下ニシテ日本ヨリ歸來參謀部員トシテ黨務ニ盡練セリ

目下上海警備司令タリ

第六師 方策 (蒋介石系)

第七師 王均 (朱培德系)

(赤 粹 紙) イ

外 務 省

4.3



三十九才 雲南省人

雲南講武學堂卒業後朱培德ノ下ニアリ漸次昇進シ今日ニ及フ  
蔣介石ニ對シテハ傍系ニ屬シ態度不明ナリ

第八師 朱紹良 (蔣介石系)

三十八才 福建省閩侯縣人

日本陸軍士官學校第十期砲兵科卒業後貴州軍第一師參謀長タリ  
シカ民國十三年七月蔣介石ノ北伐ニ從ヒテ以來蔣ノ麾下ニ屬ス

第九師 蔣鼎文 (蔣介石直系)

江蘇人

第十師 方鼎英 (蔣介石直系)

湖南省寶慶縣人

日本陸軍士官學校第八期砲兵科卒業。民國十七年北伐ノ際ニハ  
黃壇嶺ノ後ヲ襲ヒ第一集團軍第三軍團總指揮トナリ其後清江浦  
ニ駐屯セリ

第十一師 高順 (蔣介石直系)

福建省人

所謂福建軍ニ屬スルモ民國十五年ノ國民革命軍北伐ニ從事シ爾  
來蔣介石ノ麾下ニ在リ

第十二師 金漢揚 (朱培德系)

五十才 貴州省人

雲南講武學堂卒業、元貴州軍顧品參ノ部下ニシテ學堂卒業以來  
朱培德ト行動ヲ共ニシ民國十七年三月朱培德ヨリ蔣軍北伐前敵

總指揮ニ任セラレ津浦線方面ノ北伐ニ参加セリ  
王均ト共ニ宋培德系ニ屬シ蔣介石トノ關係薄シ  
第十三師 夏斗寅 (湖北土着軍)

四十五才 湖北省黃岡縣人

下士出身、多年湖南ノ趙恒惕ニ用ヒラレ同方面ノ剿匪ニ任シ民  
國十五年葉開道ニ從ツテ北伐軍ニ對抗シタルカ後革命軍ニ投シ  
十六年宜昌衛戍司令トナレリ、同年武漢派(唐生智)ト南京派  
(蔣介石)トノ軋轢ノ際ニハ四川ノ楊森等ト共ニ武漢派ヲ壓迫  
シタリ、民國十七年ニハ第一集團軍第三軍總指揮賀耀組ノ部下  
ニ屬シテ北伐ニ從事シ今次ノ漢寧交戦ニハ南京軍先鋒トシテ戰  
功第一ノ名ヲ擧ケタリ、

(赤 粹 紙) イ

外 務 省

元來彼ハ湖北歸還ヲ熱望シツツアリシヲ以テ武漢軍没落ニ至リ  
テ其ノ目的ヲ到達シタルモノト云フヘタ今後ハ湖北省内ニ於テ  
蔣ノ爲ニ相當重用セララルコトトナルヘシ

(赤 粹 紙) イ

外 務 省

(赤 梓 紙) ト

左派及共産黨ノ領袖及其動靜(昭和四年三月二十日調)

由來左派乃至共産黨ハ各地青年學徒ノ間ニ勢力ヲ有シ之カ主導者モ無名ノ士多ク一方著名ノ領袖殊ニ共産黨ノ巨頭ハ政府ノ壓迫追求ヲ悞レ居所ヲ明ニセザル傾向アル爲其動靜ヲ突止ムル事困難ナル事情アレドモ次ニ一應各種ノ情報ヲ綜合シ現在著名ノ領袖並其ノ動靜ヲ推測スルコトトセリ

一左派(國民黨廣東派)

「汪兆銘」本年三月九日在巴里大使館來電ニヨレハ汪ハ最近巴里ヲ離レ何處ニ行キタルヤ不明ノ趣ナルニ方第三次全國代表大會ヲ前ニ控ヘテ國民黨左派カ頻リニ汪兆銘引出運動ヲ策シタル事實ニ基イテカ世上或ハ汪ハ既ニ歸國シテ香港ニ在リトカ又

外 務 省

(赤 梓 紙) ト

ハ新嘉坡ニ留マリテ左派ヲ指揮シツツアリトカ傳フルモノアレドモ何レモ眞憑スルニ足ラズ

「陳公博」在來香港上海ノ間ヲ往復シテ左派ノ牛耳ヲ執リ尤モ猛烈

ニ右派ヲ論難攻撃シツツアリシ處最近蔣介石ニ金一萬元ヲ以テ買収セラレ洋行スルニ至レリトノ諜報アリ(海軍電報(南

京三月七日發))

但右ハ眞偽不明ナリ

「宋慶齡」(女史)及「陳友仁」民國十六年八月武漢ニ於テ共産黨

驅逐セラレ「ボロヂン」ヲ始メ左傾派ノ領袖相繼イテ漢口ヲ去ルニ及ビ宋慶齡及陳友仁等ハ上海滬鹽ヲ經由シテ露都「モスコワ」ニ入り爾來露國ニ滞在シ宋女史ハ民國十七年二月「モ

外 務 省

(赤梓紙)ト

スコウ」中山大學跡ニ設立セラレタル中國婦女政治訓練學校  
校長ニ就任セリト傳ヘラレ其後別ニ歸國セリトノ風説モナケ  
レバ兩者共目下歸國ニアルモノト察セラレ

「甘乃光」ヲ始メ「顧孟余」「王榮三」「何香凝(女史)」「陳樹  
人」「潘雲超」「郭春汾」(海米)「朱野青」等左派ノ關係連ハ香  
港、上海ノ間ニ策動ヲ怠ラス最近暫ニ上海ニ潛入シテ第三次代表大  
會ニ對スル左派ノ反抗ヲ煽動シツツアリト(陸軍電報(北平二月十  
五日發))

右ノ中何香凝ニ就テハ最近歐米盤業調査ニ出發セリト傳フルモノア  
レドモ根據アル説ト云ヒ難シ

其他「丁惟芬」ハ中央黨部常務委員ナレハ主トシテ南京ニアリ又直

外務省

(赤梓紙)ト

隸民黨ノ領袖「王法勤」ハ北平政治分會委員ナレハ京津地方ニアル  
モノト推測ス可ク「白雲梯」(中央執行委員)「古應芬」「經亨頤」  
(浙江省上虞縣ニ在リトモ傳ヘラル)等左派ノ要人連モ多分上海、  
南京邊リニ在ルモノト察セラレ。

尙中間派ニ<sup>左傾</sup>シテ左傾的ナルモノトシテ于右任、李烈鈞、恩克巴圖、  
李福林等著名ナルカ李烈鈞ガ目下廬山ニ在ル他皆上海ニ居ルモノノ  
如ク右ノ中于右任ハ第三次全國代表大會代表指定ノ際中央常務會ノ  
首席トシテ出席シ一時蔣介石ニ懷從セラレタルヤニ傳ヘラレシモ數  
日前再ビ上海ニ去リ南京ノ第三次代表大會ニ對抗シ別ニ廣東ニ於テ  
第三次大會ヲ開カント劃策中ナリト。

共産黨

外務省

(赤 梓 紙) ト

「譚平山」妻ニ共產黨隨一ノ團將トシテ漢口ヲ中心ニ活躍シ上海ノ  
陳獨秀北京ノ李大釗(刑死)ト並ビ稱セラレ居リタル處民國  
十六年八月武漢ニ於テ共產黨崩潰以來漢口ヲ去リテ江西省ニ  
至リ以來杳トシテ消息ヲ絶テルカ目下露都ニ在ル由傳フルモ  
ノアリ

「陳獨秀」昨春上海ニ於テ横死ヲ傳ヘラレシモ今尙生存中ナルベク  
露都ニ在リト推測スル向多シ

「徐謙」民國十六年八月共產黨放逐ノ際失脚シテ上海ニ下リシカ後  
露國ニ赴キ同十七年春河南省新鄉ノ馮玉祥ノ下ニ走レル由ナ  
ルガ其後消息ナシ。(注意ト新疆省政府委員ノ徐謙ハ同名異  
人ナリ)

外 務 省

(赤 梓 紙) ト

其他共產黨ノ領袖「林祖涵」「于樹德」「吳玉章」「博代英」「彭  
澤民」「楊匏安」等ハ前述共產黨打倒ノ際四散シテ各地ニ逃晦セル  
カ「毛澤東」「朱德」「賀龍」等ハ軍ヲ率ヒテ江西省南部ノ輿地ニ  
入り地方土匪ト結托シテ僻地ヲ擾亂シツツアリ又「鄧演達」ハ目下  
湖南省南部ニアリ策動シツツアル趣ナリ。

外 務 省

37

韓復榘

多年河公幹、部下將、香汝道、一、臨時、  
コト、河公幹、一、韓、名アリ、

一、民國十五年、河、回、軍、一、山、攻、擊、一、雲、給、月、令、  
リ、一、八、日、回、軍、カ、張、仁、森、失、倫、字、山、石、軍、機、  
軍、二、破、之、敗、走、た、ヤ、山、西、軍、二、敗、之、其、後、高、原、ト、  
二、結、遠、ニ、在、リ、  
口、西、方、ノ、下、場、リ、十七年、北、河、ハ、京、漢、線、下、金、ノ、出、助、

外務省

韓復榘

シ、奉、天、軍、運、部、ノ、際、  
解除、シ、長、江、河、題、ヲ、著、起、マ、  
主、席、ト、シ、

四、師、ノ、精、練、ヲ、求、ム、  
日、下、豫、南、編、組、隊、  
線、防、備、ニ、任、セ、ル、  
中、原、從、ヲ、履、報、越、シ、  
右、南、方、側、ノ、宣、傳、ニ、  
送、中、心、的、勸、進、ス、

外務省

石更三

海州祥一隨從元下多年。韓續孫亦所元  
孫長城等其武勇ヲ以テ名ヲリ。

十一年北伐ハ孫長城ト共ニ請命ヲ上ル。孫殿

曹軍ヲ擊破シ又同年五月河南ニ樊鍾音ヲ

示ノ軍北伐報云云  
想テ鎮定ニテ

今次北伐對其際 吾軍中鉄軍ト稱セラ

心精銳 五ヶ師ヲ率ヒテ南陽方面ニ鄂北

外務省

ヲ出視  
ノ作  
カ  
ヲ  
ト  
見  
リ  
居  
リ

外務省

宋哲元

四十二才 山东省乐陵县人

秀才科 部下トシテ連続シテ十数年ヲテ

信任行ニ居リ 第一師長且 陝西省政府主席ヲシテ

軍部 部下 劉柳芬 (第二十師) ト共ニ

陝西省東境ニ駐在中

外務省

孫長城

秀才科 一階下ニ在リ 多年 十七年 陝西省 山東

六師ニ在リ 孫傳芳軍一ヲ擊テ 破リ 廿二 山東

省政府主席ニ任命シ 第二軍團長 第一方面

軍部 指揮トシテ 梁冠英、二師

三師、精銳ヲ率ヒ 回七軍ヲ清 鎮江ニ進出シ

上海ニ出陣 山東ヲ領有セリ

シニ 孫長城ノ名ニ 蓋シテ 孫長城

外務省





其有思 於此ト思フ事トシテ也。  
其如 爲るト直ニテト 再々之ニ 政ニ及ル  
古 此トシ

其のレヲ年ニ 平本係 丁世芬 並國 兵光元  
平本 係ト 在レ政 客ノ 由ニ 目録 マシテ

外務省

劉鎮華

四十七才 河南省 鞏縣人 北京 法政學堂  
卒業、宣統三年秋 第一革命軍ニ 陝西 河  
南 境ニ 駐シテ 張少 英 部ヲ 率ヒテ 治 豫ニ 歸ル  
倫字系ニ 屬シ 陝西 省ノ 軍 制ヲ 治 手 握ル 事カ  
民國十五年 孫 軍ノ 斥 逐ニ 対 抗シ 得ル 事ニ 投 降シ  
張 軍ニ 歸ル 爲ニ 甲 日ニ 歸リ 十七年 北 伐ノ 際ニ 歸ル  
二集 軍 部 員 八 五 回 統 率 指 揮 兼 以 下 三 軍 部 ト シ

外務省

天津直り其係 楊村 常ニ駐セ 駐中 政務分會  
等あり。

知ルニ其後楊ハ 辭命在ミリ 軍費ヲ 給與セシ  
新攻者ハ 辭ト 違サリ 漢軍 兵部 一階 派力

領ヲ 河柳 下田ニ 移駐セシメリトシ 駐ニ 移ル  
今次 河柳 討立 一階 突如 討馮 軍兵 加テ

表明<sup>（外ニ 駐リ）</sup> 中央ニ 討者 十四 路 軍 犯 擡 降  
任向セシ あり。 其兵ハ 二師<sup>（二ニ 駐ル）</sup> 方ニ 近シ。

外務省

賀國光

湖南 軍兵ニ 屬シ 唐七 知系 ト 目セラレ  
十六年 田 義 軍長トシテ 武漢

衛成 副司令 あり 同年 十月 唐七 督ノ 下 勅  
湖北 省 防軍ヲ 率ヒテ 武漢ノ 稱ヲ 維持 在リ

迄 湖南ニ 駐リ 兵 會 同 漢 兵 一 階 六  
蔣 軍 三 階 漢 兵 一 階 六 或ハ 湖北 省 政府 主

一 階 二 任 之 ラルヤニ 取沙 派 セラレシ 也  
外務省



馮玉祥ノ代表トシテ南京ノ政務ニ参加シ馮玉祥  
 田ノ情報<sup>協</sup>ヲ<sup>協</sup>輯報者<sup>協</sup>之ノ立場ニアリンカ今  
 孫長河<sup>魯</sup>カ山東ヲ引揚ケ馮玉祥<sup>魯</sup>ノ係<sup>魯</sup>ヲ追  
 スルヤ南京ヲ<sup>魯</sup>通リ河南ニ赴キ韓復榘ニ面会  
 且馮玉祥<sup>魯</sup>ノ意見<sup>魯</sup>ヲ<sup>魯</sup>陳<sup>魯</sup>示<sup>魯</sup>ス由<sup>魯</sup>テカ其後上海  
 ニ帰リ<sup>魯</sup>シ依<sup>魯</sup>中央<sup>魯</sup>ニ<sup>魯</sup>リ<sup>魯</sup>軍林<sup>魯</sup>部<sup>魯</sup>ヲ<sup>魯</sup>導<sup>魯</sup>任<sup>魯</sup>ス  
 命<sup>魯</sup>マラレ<sup>魯</sup>ル<sup>魯</sup>ニ<sup>魯</sup>モ<sup>魯</sup>恐<sup>魯</sup>ハ<sup>魯</sup>ス<sup>魯</sup>曰<sup>魯</sup>下<sup>魯</sup>上海<sup>魯</sup>ニ<sup>魯</sup>在<sup>魯</sup>リ<sup>魯</sup>テ<sup>魯</sup>政<sup>魯</sup>治<sup>魯</sup>的<sup>魯</sup>の<sup>魯</sup>策<sup>魯</sup>  
 策<sup>魯</sup>中<sup>魯</sup>ナ<sup>魯</sup>リ<sup>魯</sup>

外務省

鹿<sup>魯</sup>鏡<sup>魯</sup>ハ<sup>魯</sup>既<sup>魯</sup>ニ<sup>魯</sup>軍<sup>魯</sup>和<sup>魯</sup>ヲ<sup>魯</sup>離<sup>魯</sup>シ<sup>魯</sup>テ<sup>魯</sup>政<sup>魯</sup>治<sup>魯</sup>的<sup>魯</sup>の<sup>魯</sup>策<sup>魯</sup>  
 識<sup>魯</sup>見<sup>魯</sup>アリ<sup>魯</sup>馮<sup>魯</sup>系<sup>魯</sup>政<sup>魯</sup>治<sup>魯</sup>家<sup>魯</sup>ト<sup>魯</sup>見<sup>魯</sup>ラ<sup>魯</sup>レ<sup>魯</sup>ル<sup>魯</sup>

外務省

張之江

四十七才 直隸省阜平縣人 考玉祥ニ隨從也

實業トシテ餘ニミリテ 卒任テ身ヲ送リテ

十月廿日 軍中ヲ其年ニ預ルニ至リテ乃チ及回テ

一月廿日 祥ノ外遊シテ留中 西北邊防智辯兼察哈

爾各派トシテ回大第一軍ノ統帥者トナリ

鐘麟ト共ニ豫ノ軍中ヲ勤カシメテ後 祥ノ

付表トシテ南ニ在リ 禁煙年々日長ク

外務省

シテ河東ノ別收ヲ計リ居リシカ

河東ニ在リ 現在北平

三才ノ考ハ祥軍ノ主カテ指揮ニ在リ

張之江

外務省

許慎

三十九才 山西省介休縣人 山西法政專門校

校長 兼 秘書 兼 庶務 兼 庶務 兼 庶務

現任 山西省政府秘書長 兼 山西省政府秘書長 兼 山西省政府秘書長

一 為 山西省政府秘書長 兼 山西省政府秘書長 兼 山西省政府秘書長

今 已 辭 職 歸 國 留 居 上海

現 任 上海 某某 某某 某某

外務省

范滂

湖北省蕪湖縣人 日本法政專門校第五期畢業

其科卒業後 民國元年十月 赴日 留學 法政專門校

二 進 山 法政專門校 庶務 兼 庶務 兼 庶務

現任 庶務

四十九才 河南省鞏縣人 山西法政專門校

外務省

唐生智

出身

湖南有人、前湖南實業司長唐承緒ノ子

保定軍官學校 民國三年(大正三年)卒業後 湖南陸軍見

習生トシテ隊伍ノ人トナル

大正四年以前

連長官長團長ト果進シ 大正三年趙恒惕部下

旅長トシテ湖南督軍譚延闓軍ヲ破リ 衡州ニ駐シ 湖南

陸軍少四師々長タリ 湖南省自治政府成ルニ及ヒ 湖南

善後智辦ニ寄ケケル

外務省

大正五年

省長

趙恒惕ト不和トナリ 三月兵ヲ長沙ニ進メ 趙ヲ逐ヒ 其

ノ後ヲ襲フ○吳佩孚ヲ援助ヲ承ケケル 趙ノ部將兼用

羅ノ爲ニ討タシ 五月衡州ニ退ク○次ヲ再起ヲ計リ

豫ヲヨリ豫アリニ

廣東政府ノ援助ヲ求ム 省ト廣東政府ト聯絡説

豫ノ此ノ時ヲ實現ス○北伐ノ儀執セル 廣東政府

ヨリ 廣東國民軍次軍々長兼北伐軍前敵總務

部ニ任セラル 七月 長沙ヲ克復ス○蔣介石 七月ニ

十日 廣東出發北上シ 八月十日 長沙到着スルニ及ヒ

外務省



共ニ武漢攻略ヲ始ム。○九月九日漢口占領。十月十日  
 武昌陥落。更ニ吳佩孚軍ヲ此勝園外ニ逐ヒ湖  
 北全省北伐軍ニ帰ス。○十一月江西ニ討我シテ存ス  
 石卜英ニ十一月上旬九江ニ入ル。兩湖及江西進マリ廣東  
 東政府ノ武漢救済ノ基成シ。○一時唐生智一隊  
 存ス右ノ軍長等一隊ヲ不和何ニシテ江西ニ移  
 ル北伐軍大勝ヨリ事ヲ治マリ。唐ハ廣東政府  
 一打ニ他意ナキヲ表シス。

外省

昭和二年 一月常徳ニ至リテ貴州軍ニ長袁祖銘ヲ略取  
 ス。○三月徐謙カ新名石ニ反對シ漢口ニテ三次執監  
 委員會全體會議ヲ用テ其武力的背景ヲ示シ  
 政府委員徐妻ヲ及軍事委員會主席團ニ示シテ  
 之ヲ湖南省政府委員主席兼軍事部長、團長革  
 除軍前敵總指揮。同才八軍ニ長ニトシテ岳陽ニ如シ  
 ○四月ノ將令石卜、南東政府成立シテ武漢救済ヲ抗爭  
 始メシ。○五月馮玉祥ト協力シ河南ヲ定ム。○六月

外省

鄭州ニ於テ馮玉祥ト會談後河南ヲ馮ニ讓リ武漢ニ返  
 リ武漢政府ヲ第四集團軍總司令兼第一方面軍總  
 指揮ニ任セル○又湖南共産党ト軍隊ト衝突多ク  
 ヲ查辨シ反共態ヲ以テ○八月武漢省政府ハ  
 國民黨ト共産党トノ分岐之際ニ魏益三軍ヲ武漢  
 解除シ劉佐秘書ヲ改稱シ又彭漢章ヲ魏益三武  
 漢ノ軍權ヲ獨占ス○八月十三日府有石下野ニ辭  
 漢合作ノ激熱<sup>カヒヤ</sup>國民政府南京ヲ移轉<sup>カヒヤ</sup>南東

外務省

代表李景仁ト<sup>等</sup>互協セル自ラハ南京ニ赴クス○九月  
 汪精衛、陳公博、顧孟余等ヲ抱キ以テ政治的地位  
 ノ向上ヲ計リ新軍閥ノ鋒銳ヲ歎シ南京政府化命リ  
 省政府委員及堂中委員等ヲ罷逐シ安徽省政府ヲ否認  
 セル南東側ノ反感ヲ昂ム○十月武漢南京兩派  
 決裂シ南京政府ヨリ十月二十日附<sup>ハ</sup>討令<sup>ハ</sup>ヲ交ス<sup>ハ</sup>兩軍  
 楊子恒兩岸各地ニ於テ衝突シ結果戦利アリ南  
 京軍ハ西江討寇軍(方振武、魯滌平、楊森、李

外務省

袁世凱軍(袁)ノ武漢進駐ニヨリ十一月十日下野ヲ通電  
レ武漢ヲ脱去日本ニ亡命ス

昭和三年 四月密ニ佛國シ上海ニ駐在シ機ヲ設ク

昭和四年 三月武漢ニ本據ヲ有ルル廣西派ト稱ス

石北ト肉体悪化スルヤ移リ石ハ白崇禧軍ノ大軍カ  
唐ノ旧都トシ關係ニ有リ何成濟ヲ聞ク唐ノ公唐ヲ

促<sup>ス</sup>レ<sup>ル</sup>佛國結果 密カニ北支那ニ至リ白ニ代リテ軍中

討逆<sup>ニ</sup> 關軍ヲ五路編括<sup>ニ</sup> 奉天<sup>ニ</sup> 亦五十一師(李昌仙)

外務省

五十二師(劉鼎)カ五十四師(魏君三)凡劉君榮軍  
ヲ編隊スニトナリ其兵力約六萬

外務省

唐生智

夏期講習第二課

四十才。湖南省東安縣人。前清建威將軍提督唐本有ノ孫。前湖南實業司長唐承緒ノ子也。

湖南陸軍小學堂。湖北陸軍中學堂及保定軍官學校卒業。

始メ湖南省長趙恒惕ノ部下ナリシカ民國十五年五月趙ノ部下葉開鑫ノ爲ニ攻撃セラレ（葉ハ武漢ノ吳佩孚ノ支持ヲ受ケタリ）廣東政府（國民黨）ニ投テ乞ヒ蒋介石ヨリ國民革命軍第八軍長ニ任セラレ北伐軍（七月廣東出發）ノ先導トシテ葉ヲ討チ九月吳佩孚ヲ敗リテ武漢ヲ占領セリ。

武漢占領後唐生智ハ兩湖ヲ平定シテ同方面ノ軍權ヲ掌握シ當時（民國十六年初頭以來）武漢政權ヲ獨占セル國民黨左派及共產黨ヲ

外務省

（本報）

支持シテ南京ノ蒋介石（民國十六年四月十八日南京政府樹立）ト抗争スルニ至リ遂ニ蔣ヲシテ下野スルノ已ムナキニ立至ラシメ（蒋介石ハ民國十六年八月十八日下野ヲ聲明シテ日本ニ去レリ）其結果一時漢寧兩派合体シタルカ幾許モナク兩派再ヒ分裂シ左派汪精衛ヲ擁護シテ武漢ニ立籠リタル唐生智ハ南京軍（李宗仁、程潛）等ノ爲ニ討伐セラレ十一月十一日下野ヲ通電シ武漢ヲ脱出シテ日本ニ亡命セリ

其後唐生智ハ密カニ上海ニ歸リ（民國十七年四月）專復活ノ機會ヲ窺ヒ居リシカ本年三月漢寧（蒋介石對李宗仁）關係惡化スルヤ蔣ノ腹心何成濬ハ京津地方（唐山方面）ニ在ル廣西派白崇禧軍（四ヶ師約五萬）ノ大部分カ唐生智ノ舊部下湖南軍タルニ着目シ唐

外務省



ノ出陣ヲ促シ白軍買収ノ後唐ヲコレカ總帥ニ推舉セリ（四月五日  
討 對逆第五路總指揮ニ就任）

而シテ蔣介石ハ五月下旬河南ノ馮玉祥軍ニ對スル戰略上唐生智軍  
ヲ山東濟寧方面ニ移シ更ニ馮軍河南撤退後同軍ヲ鄭州一帶平漢線  
上ニ駐屯セシメテ馮軍ノ逆襲ニ備ヘタル處元來唐ハ湖南或ハ湖北  
ニ歸還シテ昔日ノ強勢ヲ回復スルノ野圖ヲ抱ケル模様ニシテ加  
ルニ從來左派（汪精衛）トノ友好關係上蔣介石ニ對スル態度兎角  
疑問視セラレタルヲ以テ蔣介石ハ唐生智ヲ軍事參議院長ニ任命シ  
テ（五月）南京ニ招致シ蔣一流ノ懷柔ヲ講シツツアリシカ今秋西  
北軍（馮系）ノ河南進出ニ際シテハ唐ニ嚴重ナル監視ヲ加ヘテ戰  
線ニ送り其麾下第五路軍ハ南京軍精衛監督ノ下ニ先陣ニ立テタル

外務省

45

ヲ以テ唐生智モ已ムナク南京軍ノ爲ニ善戰シ孫良誠軍ノ猛撃ヲ防  
禦セリ

然ルニ右唐軍ノ善戰モ畢竟スルニ蔣介石ニ安心ヲ與ヘ其ノ監視ヲ  
逃レムカ爲ノ手段ニ過キサリシモノノ如ク今次石友三ノ兵變アル  
ヲ果然他ノ反蔣軍閥ニ先ンシテ討蔣通電ヲ發シ麾下全軍ヲ率ヒテ  
武漢ニ出テムトスルノ態度ヲ示セリ因ニ唐生智ノ軍隊ハ左ノ通り

第五路總指揮 唐生智

第八軍長 劉興

第五十一師（龔浩）第五十三師（劉興）

第九軍長 何成濬

第十四師（劉春榮）第五十師（龔益三）

外務省

43

外 務 省	河	山	福	廣	廣	湖	湖	浙	江	地
	南	東	建	東	西	南	北	江	蘇	方
	鄭	崔	許	陶	龔	龔	李	趙	徐	氏
	宗	士	建	履		德		文		
	彥	杰	廷	謙	元	柏	芳	銳	謨	名
	天	臨	不	不	容	不	湖	不	吳	本
	津	溜	明	明	縣	明	北	明	籍	籍

現在各地交渉員ノ氏名及本籍ヲ列舉スレハ左ノ如シ

(示 抄 紙)

右ノ中第九軍ハ蔣直系何成濬(目下太原ニ在リ)ノ指揮ニ屬シタル關係上唐トノ關係稀薄ナルカ如ク蔣介石ハ同軍ニ對シ盛ンニ懐柔ノ手ヲ延シ居ル模様也

昭和四年十月十五日調

(示 抄 紙)

外  
務  
省

外務省

重慶	汕頭	廣東	厦門	宜昌	芝罘	溫州	寧波	蘇州	鎮江	南京
季宗孟	楊建平	沈重素	劉光謙	李翔東	中譯宜	貝志翔	蔣錫侯	溫秉中	載德撫	張德年
成大	大羅	羅南	南黃	黃福	福吳	吳寧	寧廣	廣五	五奉	奉化
都	埠	定	通	岡	縣	縣	波	東	華	化

4.5

(赤棒魁) +

外務省

以上十六名ハ外交部ノ任命ニ係ル

迪化	雲南	四川	陝西	江西	安徽	河北
徐繼善	張維翰	李思純	鄧長耀	錢天任	盧春芳	蘇體仁
不	大	成	不	崇	漢	相
明	關	都	明	德	川	縣

4.5

(赤棒魁) +